◆3　古典B　次の動詞の練習問題4問を二日に一回のペースで解きなさい。

解答は後日配布。各自で自己採点をすること。

（1）各文の傍線部の動詞について、行・動詞の種類・終止形・活用形とを記せ。

（例）わたの原　八十島かけて　こぎいでぬと　人には告げよ　あまのつり舟
〔　ガ　〕行〔　下二段活用　〕動詞〔　「告ぐ」　〕の〔　命令　〕形

a　奥山に　もみぢふみわけ　なく鹿の　声聞く時ぞ　秋はかなしき
〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

b　あしびきの　やまどりの尾の　しだり尾の　ながながし夜を　ひとりかも寝む
〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

c　あらざらむ　この世のほかの　思ひ出に　いまひとたびの　あふこともがな
〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

d　音に聞く　高師の浜の　あだ波は　かけじや袖の　ぬれもこそすれ
〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

e　高砂の　尾の上の桜　咲きにけり　外山の霞　立たずもあらなむ
〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

f　八重葎　しげれる宿の　さびしきに　人こそ見えね　秋は来にけり
〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

（2）各文の傍線部の動詞について、行・動詞の種類・終止形・活用形とを記せ。

a　大江山　いく野の道の　遠ければ　まだふみも見ず　天の橋立

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

b　君がため　春の野に　出でて若菜つむ　わが衣手に　雪は降りつつ

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

c　春過ぎて　夏来にけらし　白妙の　衣干すてふ　天の香具山

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

d　滝の音は　絶えて久しく　なりぬれど　名こそ流れて　なほ聞こえけれ

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

e　来ぬ人を　まつほの浦の　夕なぎに　焼くや藻塩の　身もこがれつつ

「ぬ」は助動詞「ず」の連体形

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

f　天つ風　雲のかよひ路　吹き閉ぢよ　乙女の姿　しばしとどめむ

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

（3）　次の各文の傍線部の動詞について、行・動詞の種類・終止形・活用形とを記せ。

a　立ちわかれ　いなばの山の　峰に生ふる　まつとし聞かば　今帰り来む

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

b　み吉野の　山の秋風　さ夜更(ふ)けて　ふるさと寒く　衣うつなり

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

c　玉の緒よ　絶えなば絶えね　ながらへば　忍ぶることの　弱りもぞする

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

d　嘆けとて　月やはものを　思はする　かこち顔なる　わが涙かな

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

e　我が袖は　潮干に見えぬ　沖の石の　人こそ知らね　かわく間もなし

「ぬ」は助動詞「ず」の連体形

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

f　長からむ　心も知らず　黒髪の　乱れて今朝は　ものをこそ思へ

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

（４）　次の各文の傍線部の動詞について、行・動詞の種類・終止形・活用形とを記せ。

a　ちはやぶる　神代も聞かず　竜田川　からくれなゐに　水くくるとは

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

b　みかきもり　衛士のたく火の　夜は燃え　昼は消えつつ　物をこそ思へ

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

c　秋風に　たなびく雲の　絶え間より　もれ出づる月の　影のさやけさ

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

d　わたの原　こぎ出でて見れば　ひさかたの　雲居にまがふ　沖つ白波

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

e　契りおきし　させもが露を　命にて　あはれ今年の　秋も去ぬめり

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形

f　村雨の　露もまだ干ぬ　まきの葉に　霧たちのぼる　秋の夕暮れ

「ぬ」は助動詞「ず」の連体形

〔　　〕行〔　　〕動詞〔　　〕の〔　　〕形